

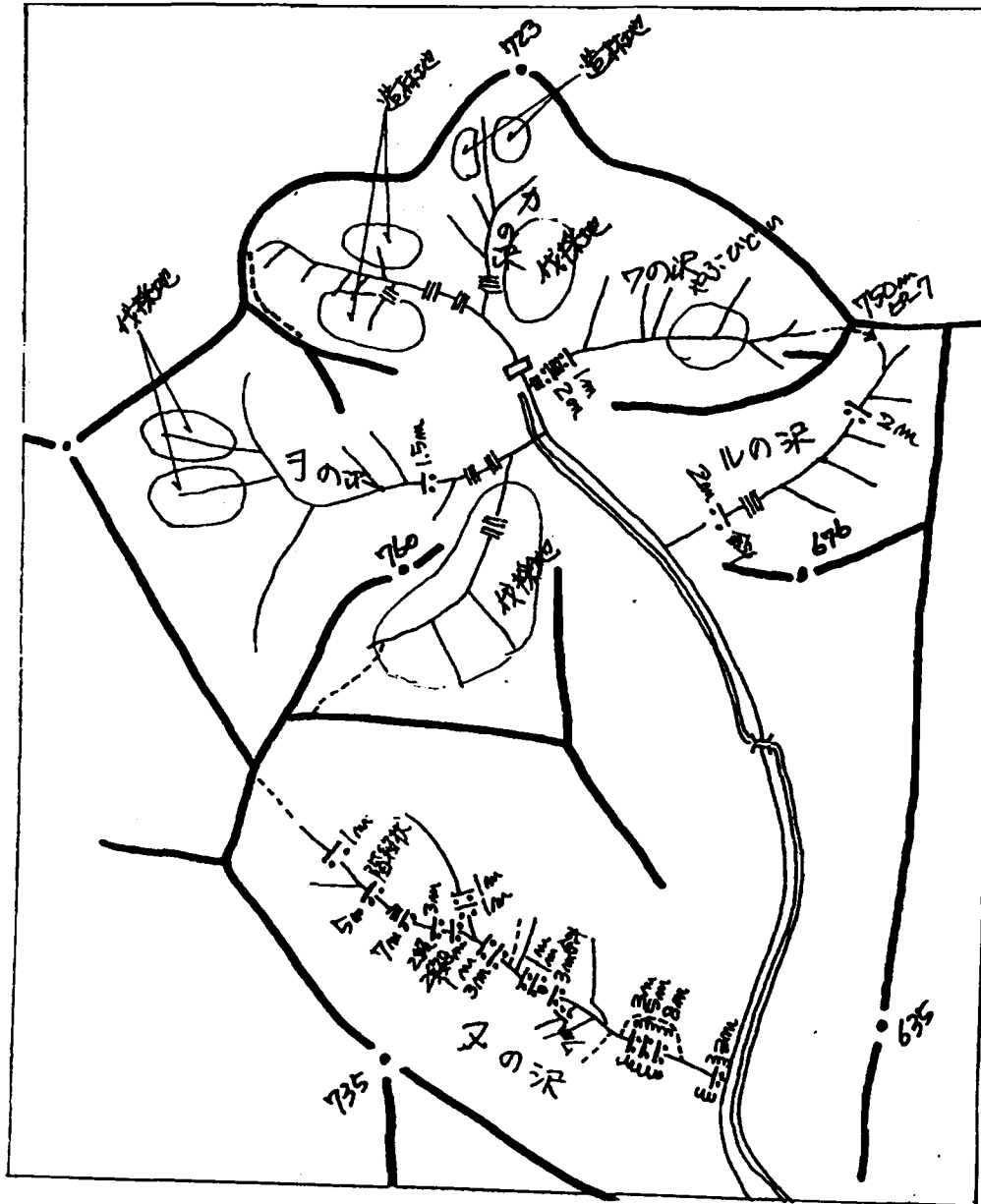
鬼ヶ畑沢支流ルの沢

1989年5月27日

L 郎

天気晴。11時50分下降開始。5分程で沢に水が出てくる。この沢の兩岸にはだ
いぶ前にスギやヒノキが植林されていて、うっそうとしており、沢にはヤブがか
ぶさっている。

5分程下った所で昼食をとり、下降を再開すると2m程の小滝が出てくる。こ
の後左岸には比較的幅の広い造林のための作業路が出てくる。至る所寸断されて



ヤブがかぶっているが、これが地図に記されている道のようなものである。途中、土管でつくった小さな砂防ダムのようなものがあった。

更に下降を続けるが、さして変化もなく、12時40分、鬼ヶ煩本流と出合い、下降を終了とする。この沢も、杉の倒木が多くて、歩きづらかった。

(記 1)

[タイム] 下降開始(11:50)→下降終了(12:40)

鬼ヶ煩沢支流ヲの沢左俣

1989年5月28日

L

1

11時20分下降を開始する。目的の沢は、ヲの沢(仮称)の左俣で、兩岸とも源頭まですべて伐採されている。前日ヲの沢(仮称)右俣を下降した時に、ずっと見通しがきいていたので、何もなことを確認している。ただ下降路に使用するだけが目的の行動である。

刈り払われた枝を踏み越えて、10分程で沢へ。水量は少なく、刈り払われた枝に覆われているので、歩きづらい。あまり歩きづらいので、沢から上がって、途中から作業用の踏跡を利用する。前日下降した右俣に出会うと、林道はすぐそこであった。25分程の下降であった。

この沢の流域は、ただいま造林中である。二俣付近左岸では、植林作業が進められていた。

(記・

[タイム] 下降開始(11:20)→下降終了(11:45)

鬼ヶ煩沢支流ヲの沢右俣

1989年5月27日

L

天気晴。標高約760mの小ピークから南西に向かって下降を開始する。源頭部はヤブが薄く、簡単に沢に降りることができた。沢は枝沢を合わせながら、少しずつ水量を増してゆくが、それでも小沢程度である。右岸のほとんどは伐採され、沢は枯枝で埋まっている。途中から造林のための踏跡が所々に出てくるようになる。この沢の流域は、現在造林中。地元の人たちが作業に当たっていた。10時20分、鬼ヶ煩林道に着く。

(記・